

第30回高知女子大学看護学会報告

看護とコラボレーション －質の高い保健医療サービスを提供するために－

中野綾美*

第30回高知女子大学看護学会が、2004年7月24日（土）・25日（日）、山崎美恵子学会長のもと、『看護とコラボレーション－質の高い保健医療サービスを提供するために－』をテーマに、高知女子大学池キャンパスで開催された。学会員をはじめ、一般参加者を含め、多くの地域の看護職者や看護学生の参加が得られ、盛会の内に無事開催することができた。

学会1日目のプログラムは、山崎美恵子学会長の挨拶に始まり、高知県看護協会会長秋田美智子氏と高知女子大学学長青山英康氏による来賓挨拶の後、5題の研究発表が行われた。学会2日目は、午前中まず7題の研究発表が行われた。午後には、シンポジウム『病いと共に生きる人々を支えるコラボレーション－看護の果たす役割と課題－』が行われた。

学会長挨拶 －学会の発展に向けて－

山崎美恵子学会長より、第30回高知女子大学看護学会開催にあたり、今回『看護とコラボレーション－質の高い保健医療サービスを提供するために－』というテーマが企画された意図について、日本の看護の動向をふまえて説明された。また、学会のシンポジウムをご担当頂いた小迫富美恵氏・高橋美枝氏・武田廣一氏・佐藤美穂子氏に感謝の意が述べられた。

最後に、学会の準備のために学会運営委員の皆様をはじめ、学内外の方々のご支援ご協力を賜ったことに対する感謝の意が述べられた。



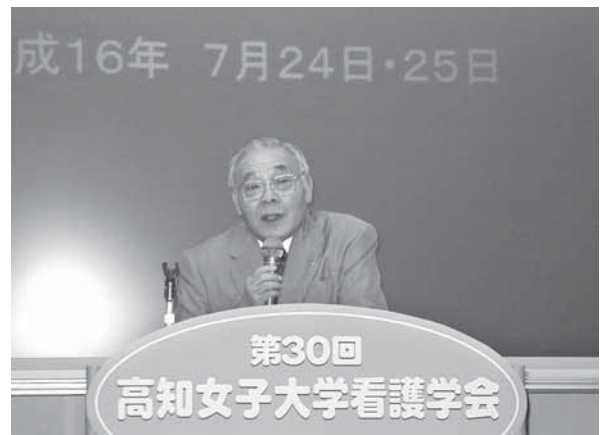
*高知女子大学看護学会企画委員長

来賓挨拶

ーコラボレーションの充実への期待ー

来賓の高知県看護協会会長秋田美智子氏より、第30回高知女子大学看護学会の開催にあたり、長きに渡る高知県看護協会と高知女子大学看護学会の協働に対して、敬意とお祝いの言葉が寄せられた。高齢化問題が深刻化する中で、よりよいケアの提供を推し進めていくためには多くの専門職とのコラボレーションが重要であり、その中で看護職の果たすべき課題について討議され、実践へつなげるステップとなることが期待されると挨拶を結ばれた。

また、高知女子大学学長青山英康氏より、高知女子大学看護学会が学会員同士の研鑽を積み重ね、高知女子大学やその他の医療福祉機関との連携を重要視しながら、発展してきたことに対して、敬意の言葉が寄せられた。



シンポジウム

病いと共に生きる人々を支えるコラボレーション ー看護の果たす役割と課題ー

シンポジスト

小 迫 富美恵

（横浜市立市民病院がん看護専門看護師）

高 橋 美 枝

（医療法人つくし会南国病院副院長）

武 田 廣 一

（社会福祉法人さんかく広場常務理事・施設長）

佐 藤 美穂子

（日本訪問看護財団常務理事）

ファシリテーター

藤 田 佐 和

（高知女子大学教授）

小笠原 充 子

（医療法人近森会近森病院老人看護専門看護師）



ファシリテーターの藤田佐和氏の進行のもと、4名のシンポジストの方々から、医療現場におけるコラボレーションの実態や課題についてお話しいただき、その後フロアーとの交流会を行い、2時間半という時間は充実したものとなった。

小迫氏より、がん看護専門看護師という立場から、臨床場面における専門看護師の果たす役割、特に疼痛緩和のためにどのようにコラボレーションしているのかということについてお話しいただいた。高橋氏は、医師という立場から、神経難病の医療におけるコラボレーションについて話された後、看護に対する期待を語られた。武田氏からは、ソーシャルワーカーという立場から、家族や関係機関とのコラボレーションの実態について話していただいた。佐藤氏は、在宅支援の中核をなす訪問看護の実態やその中でのコラボレーションについて話してくださった。シンポジウムを通して、看護者がチームの一員であることの意識を高め、ケアの質を高めていくためにいかにコラボレーションをしていくのかという必要性に着目し、実践していくことを再確認することができた。

